

彗星課月報

Monthly Report of the Comet Section, January, 2009

課長 関 勉 T. Seki

幹事 松本敏一 T. Matsumoto 幹事 佐藤裕久 H. Sato

1月の状況 (佐藤)

☆ C/2007 N3 (Lulin) (写真 a)

1月4日、彗星課メーリングリスト (以下 oaa-comet ML) に熊本県南小国町の宇都宮章吾氏から「1月2日と4日朝の眼視報告です。ルーリン彗星は、青緑色の強い彗星で、15cm 双眼鏡でも分かります。P/2008 X4 は、今朝 15cmB にて、佐藤さん、村岡さんの軌道要素をもとに向けてみましたが、彗星状のものを、見い出すことはできませんでした。」とのコメントと観測報告があった。6日には、千葉県船橋市の張替憲氏から同じく「尾は見えませんがコマが綺麗なエメラルドグリーンに輝いています。」と C/2006 OF2、29P とともに3日の眼視観測が報告された。

筆者も6日に同じく「…今朝は雲がなかなか抜けないのでしばらくからず座付近を眺めていましたら、やっと雲が切れて C/2007 N3 が直ぐに確認できました。残念ながら P/2008 X4 は観測できませんでした。毎日部屋は暖房しないでいますが、さすが外は氷点下で、素手ではかなりきつく、おまけにライトの電池がパワー不足で、ほとんど手探りでスケッチをしました。」とのコメントと眼視観測報告をした。

☆ P/2008 Y3 (McNaught)

1月1日、NEOCP に Siding Spring Survey 発見の明るい天体 8Y621C9 が掲載されていた。筆者から oaa-comet ML に「コマが捉えられれば彗星なのですが、果して何でしょう。…らしんばん座です。」との問いに、埼玉県上尾市の門田健一氏から同じく「ちょうど観測中でしたので、先ほど向けて3分露出 x16 枚を得ました。コンポジットしてみると、モーションが合致した微光天体が居ます。しかし、薄雲が通過中だったことに加えて、微風で鏡筒が揺れて、星像がイマイチで、ボケているかどうかは判別できませんでした。」とのコメントに続いて位置観測の報告があった。翌日、IAUC 9009 に C/2008 Y3

(McNaught)となったことが伝えられた。

4日、高知市の村岡健治氏より oaa-comet ML に「C/2008 Y3 の軌道です。今朝の 372（下元繁男氏観測）の観測を加えて計算すると、放物線では残差が大きくなりすぎるので、一般軌道を計算してみました。まだ、確かではありませんが…。」との報告があった。6日、筆者も同じく「…短周期彗星の可能性が大きくなってきました。」とコメントした。

8日朝、MPEC 2009-A43 に 22.9 年周期の P/2008 Y3 (McNaught) になったことが伝えられた。

○ 眼視観測報告

C/2006 OF₂ (Broughton)

2009	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
Jan.	1. 80	10. 3	2'	6	-	-	3/5	3/5	25×15cmB	宇都宮章吾	
	3. 69	10. 2	2. 8	6	-	-	4/5	2/5	49×32cmL	張替 憲	
	3. 81	10. 3	2	5	-	-	4/5	2/5	25×15cmB	宇都宮章吾	
	6. 77	10. 7	0. 8	6	-	-	-	-	79×30cmL	永島和郎	
	17. 54	10. 5	2. 0	6	-	-	3/5	2/5	49×32cmL	張替 憲	

C/2007 N3 (Lulin)

2009	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
Jan.	1. 86	7. 0	4'	5	-	-	2/5	3/5	16× 7cmB	宇都宮章吾	薄雲あり
	3. 83	7. 5	5. 0	6	-	-	3/5	2/5	49×32cmL	張替 憲	中央集光
	3. 85	7. 4	3	5	-	-	4/5	-	10× 7cmB	上原貞治	
	3. 87	6. 7	4. 5	5	-	-	4/5	2/5	16× 7cmB	宇都宮章吾	
	5. 83	7. 4	5	6	-	-	3/5	3/5	25×10cmB	佐藤裕久	
	6. 85	7. 6	2. 9	5	-	-	-	-	26×10cmB	永島和郎	
	7. 80	7. 1	5	5	-	-	3/5	3/5	25×10cmB	佐藤裕久	薄雲り
	14. 83	6. 5	8	5	-	-	3/5	-	10× 7cmB	上原貞治	月明あり

29P/Schwassmann-Wachmann (写真 b)

2009	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
Jan.	3. 71	11. 0	6'	2	-	-	4/5	2/5	49×32cmL	張替 憲	中央集光

144P/Kushida

2009	UT	m1	Dia	DC	Tail	p. a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
Jan.	17. 53	9. 0	7'	4	-	-	3/5	2/5	49×32cmL	張替 憲	
	24. 57	8. 2	6	4/	-	-	4/5	4/5	25×10cmB	佐藤裕久	

○ 1 月中に発見・検出された彗星

☆ 212P/2000 YN₃₀ (NEAT) 2000 年 12 月に NEAT サーベイによって発見された小惑星状天体 2000 YN₃₀ が 2008 年 10 月 30. 48 日 UT、Kitt Peak の 0. 9-m

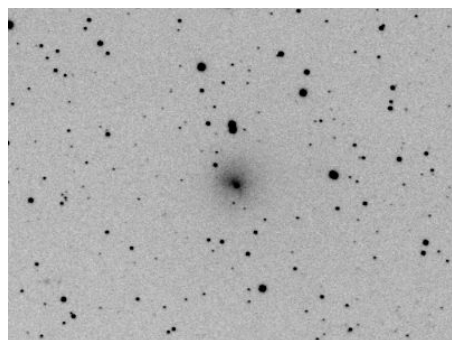
Spacewatch 望遠鏡で検出された。しかし、最近彗星活動が見られ、A. R. Gibbs (Catalina、0.68-m Schmidt 望遠鏡)らによって彗星状であることが観測された。(IAUC 9010, 2009 Jan. 12)

☆ P/2009 B1 (Boattini) 1月21.07日 UT、A. Boattini は、Catalina スカイサーベイの 0.68-m Schmidt 望遠鏡で得た画像から強い集光のある 10" のコマと p. a. 60° に約 30" の尾のある彗星を発見した。小惑星センターの NEOCP に掲載され、W. H. Ryan ら多数の CCD 位置観測者によって彗星であることが確認された。(IAUC 9013, 2009 Jan. 22)

☆ P/2008 WZ₉₆ (LINEAR) LINEAR サーベイにより 2008 年 11 月末と再び 12 月末に小惑星状天体が発見され、小惑星センターで連結され 2008 WZ₉₆ と仮符号がつけられた。小惑星センターの NEOCP に掲載され、P. C. Sherrod ら CCD 位置観測者によって彗星であることが確認された。(IAUC 9015, 2009 Jan. 30)

☆ C/2009 B2 (LINEAR) 1月29.47日 UT、LINEAR サーベイにより小惑星状天体が発見され、小惑星センターの NEO Confirmation Page に掲載後、F. Hormuth ら CCD 位置観測者によって彗星状であることがわかった。(IAUC 9016, 2009 Jan. 31)

その他比較的明るい彗星は、C/2006 W3 (Christensen)、19P/Borrelly、210P/Christensen、C/2008 T2 (Cardinal) などであった。



(写真 a) C/2007 N3 (Lulin) 2009, 01, 04

(写真 b) 29P/Schwassmann-Wachmann 2009, 01, 25

5h10.0m-26.0m (JST) exp. 60s×11 TOA130+CCD

0h55m-1h05m (JST) exp. 60s×7 TOA130+CCD

三重県伊賀市上野 田中利彦氏

三重県伊賀市上野 田中利彦氏